

SGK 流・数学は役に立つ教育方式の薦め

SGK 片瀬 豊 尾木 純

数学月間とは雲をつかむ様な話でしたがお蔭様でこのところ少しその空気が見える様になって来ました。 米国 MAM では、これを数学の社会的理解と評価を上げる事だと表現しています。 数学力低迷の空気が流れて来たのに対して数学は役に立つという姿を見せる事により学習意欲が高まるという学力向上の駆動力を期待するわけです。

文部科学省の HP に出された「日常生活に役立つ数学の題材」から所要の数学項目別の事例を任意に抽出できる CD に改良しました。これを CD 情報プロモータ-にお渡しして、近傍の数学の先生と生徒の集合に任意に適用する事をお薦めしたい。適用の一例をマニュアルに掲げてあります。 以前、数学月間設立時に決まった文科省の数学月間担当官を通じて、この HP 内容の活用について了解されました。

このデータベースは日本数学協会と三菱総研の先生方が作成したと聞いています。 CD プロモータ-と数学の先生が同一人物になる事もあり得ますが、一般に学校の先生方は非常に忙しいと聞いているので、最小限の手間になる様工夫願いたい。これを適用実行していく過程でデータベースを改良拡充していく事もあり得ましょう。

ゆとり教育挽回の出前授業でのアンケートで「日常生活に役立つ数学」なら興味を持つ意見が多かった事から、この CD から数学項目毎に役立つ姿を見せる事が学習意欲向上に繋がるものと考えます。

要は、このコンセプトを数学教育空間に浸透させて、数学教育の生産性を上げる事を期待致したいものです。